

# 集団づくり部会

## I. 研究の概要

### 1. 研究課題

「さまざまな集団の中で生き生きと活動するためには、どのような実践や工夫を取り入れるべきか」

### 2. 研究内容

#### 【研究内容1】

全校や異学年集団の中で、児童・生徒が生き生きと活動するための実践と工夫（小・中）

- ① 日常の児童・生徒会活動
- ② ボランティア活動
- ③ 特色ある学校行事や集会活動の企画
- ④ 異学年交流

#### 【研究内容2】

学級や学年の児童が生き生きと活動するための実践と工夫（小）

- ① 日常活動（班・当番・係・音楽等）
- ② 行事に向けての学級としての取組
- ③ リーダー・フォロアーの育成
- ④ エンカウンター

#### 【研究内容3】

学級や学年の生徒が生き生きと活動するための実践と工夫（中）

- ① 日常活動（班・当番・係等）
- ② 行事に向けての学級としての取組
- ③ リーダー・フォロアーの育成
- ④ エンカウンター

#### 【研究内容4】

児童・生徒が生き生きと取り組む集団活動の工夫（小・中）

- ① 行事や集会におけるレクリエーション
- ② 劇・音楽・踊りなどの表現活動

### 3. 研究方法

#### (1) 交流計画

研究内容についての実践例・失敗談などを交流し、「さまざまな集団の中で、子どもたちが生き生きと意欲を持って活動するための自主的・主体的な取組には、どのような実践や工夫を取り入れるべきか」についての研修を深める。

#### (2) 分科会構成

午後半日日程

北ブロック会場（江別市立野幌中学校）

南ブロック会場（北広島市立広葉中学校）

分科会

- |       |  |
|-------|--|
| 第1分科会 | 全校や異学年集団の中で、児童・生徒が生き生きと活動するための実践と工夫（小・中） |
| 第2分科会 | 学級や学年の児童が生き生きと活動するための実践と工夫（小）            |
| 第3分科会 | 学級や学年の生徒が生き生きと活動するための実践と工夫（中）            |
| 第4分科会 | 児童・生徒が生き生きと取り組む集団活動の工夫（小・中）              |

## II. 実践研究の経過と成果

### 1. 実践研究の経過

#### (1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 8日 第1回部会役員研修会  
研究計画の概要の確認
- 5月23日 第2回部会役員研修会  
今年度の課題部会研究協議会の提言内容について
- 7月14日 第3回部会役員研修会  
課題部会研究協議会の運営について
- 9月 5日 課題部会研究協議会
- 9月21日 第4回部会役員研修会  
研究の成果・課題のまとめと次年度研究計画について
- 11月21日 第5回部会役員研修会  
次年度の研究計画について

#### (2) 部会役員研修会での研究成果

- ・旧「子どもの活動部会」と旧「地域・文化部会」が合わさり、「集団づくり部会」となって活動した反省点をふまえて、本部会が目指す方向性を確認し、研究内容を見直した。
- ・研究内容の見直しにともなって、分科会も再編したため、周知する方法について交流した。
- ・南北2会場に分かれての研究協議会運営のあり方や分科会の振り分けについて検討した。
- ・研究内容に適した講演会に向けて、講師の選定を行った。
- ・小グループでの交流、レポート内容の交流が活発になるような分科会運営のあり方について検討した。

### 2. 課題部会研究協議会での交流・協議

|   |   |
|---|---|
| <p><b>【第1分科会】</b><br/>～全校・異学年集団（小・中）～</p> | <p><b>①小集団でのレポート・実践交流</b></p> <p>4グループに分かれ、レポート交流を行った。どのグループも、日ごろ児童・生徒に活動させるなかで教師が感じている苦労や悩みなどを交流し、お互いにアドバイスをし合う様子が見られた。生徒数、時数が減らされていて、限られた条件の中でいかに児童・生徒の主体的な取組をつくっていくか、どうやってリーダーを育て、自主的な取組にしていったらよいのかななどの課題が出た。</p> <p><b>②成果と課題</b></p> <p>やってみたいと思わせる活動と部活動とのバランスが難しいという課題が挙げられた。いきいきと活動できる場を作りたいが、時数が限られているので、その中でいかに工夫するかが大切になるという想いを共有することができた。</p> |
|---|---|



## 【第2分科会】

～学級づくり（小）～

### ①小集団でのレポート・実践交流

第2分科会では、「学級や学年の児童が生き生きと活動するための実践と工夫」についてのレポートをもとに、4つのグループに分けて交流を行った。同じ学校の先生方には違うグループに分かれてもらい、できるだけ多くの学校の話が聞けるようにした。



○子どもたちが安心し、集中して学習に取り組むために教室環境作り

- ①全校で統一した掲示場所、黒板は授業専用とし掲示物は貼らない
- ②教室前面は掲示物を減らし、黒板や授業の内容に集中させる
- ③衣類はハンガーにかけ、整頓する
- ④係や当番が人目でわかる掲示法

○子ども同士のコミュニケーションを図る

- ①ねらい(自己理解・他者理解・自己受容・自己主張・信頼体験・感受性の促進)にあわせたエンカウンター
- ②全員遊びの計画的実施
- ③互いにお祝いしあう誕生日の取組(歌、リコーダー演奏、集合写真)

○子どもたちに自己有用感をもたせるための取組

①低学年は班・係・当番活動の中で

- ・班の中で一人一人に役割を与え、責任をもたせる。
- ・係のポスターを工夫させ、係の一員としての意識を高める。
- ・一人一役として、全員が毎日取り組める係を設定する。
- ・学級に必要な役割と学級が楽しくなるような係を分けて、活動させる。  
合言葉は「あなたがいないと困る」「あなたがいると楽しい」

②高学年は自覚とプライドをもたせて

- ・縦割り清掃による、リーダー性の育成。下級生との関わりの中で、必要感を育てる。
- ・児童会活動との関連性を考えた係活動。
- ・実行委員を立ち上げ、行事や学年集会を計画的に進めていく。  
(運動会・遠足・修学旅行・卒業にむけてなど)

○学級数が多い

- ・学年でしっかりテーマをもち学級間の温度差をなくす。
- ・担外の補欠や少人数指導に入った時の児童のかかわり方が重要。

### ②成果と課題

各学校の実践のレポート交流が行われた後に、共通の課題が見えてきたので、課題に対しての解決方法を交流した。

○異学年交流や学級での取組

- ・低学年・中学年には「シール」が有効だが、高学年になると効果的ではない。子どもたちが食いつくようなものを用意する、目標を設定させるなどの工夫が必要。

## 【第3分科会】

～学級づくり（中）～

### ○家庭学習の取組

- ・家庭学習、宿題の採点に膨大な時間がかかる。
- ・メニュー表のようなものを渡し、そこから選ばせると、簡単なものしかやっこない。
- ・保護者の協力が必要
- ・「親育て」の必要性

⇒各学校で様々な取組を行っているが、子どもたちが生き生きと活動するために大切なことは、「肯定的」「前向き」な教師の声掛けが必要だということ共通認識として確認した。

### ①小集団でのレポート・実践交流

5～6人の6グループに分かれ、レポート交流を行った。準備したレポートをもとに、どのグループでも活発に話し合いが行われていたのが印象的であった。学級や学年で取り組んでいる実践の話はもちろん、子どもたちを集団の中で成長させていく中での悩みや課題と感じていることを共有することができた。

#### ○グループ①

- ・子どもたちが行事で盛り上がったたり、熱くなったりしない。
- ・集会での拍手を自分からしないので教師主導や生徒会主導の拍手練習を行っている。

→盛り上がり方まで教えなくてはいけないかもしれない。

#### ○グループ②

- ・「一人一役」の取組で、学年で役割分担を確認し、指導を統一する。
- ・班の話し合いを活用し、班長を中心に学級の改善点をあらい出す。

→役割を持たせて自治的活動を発展させる。

#### ○グループ③

- ・子どもたちがどうなりたいかを共有する。
- ・わかりやすい目標を設定し、取組を促す。
- ・子どもたちには、周りに目を向けられるようになってほしい。
- ・活動内容を精査して、学校生活の中で完結できるようにする。

→保護者を巻き込み、理解を得て、味方になってくれると、どんな取組もできる。

#### ○グループ④

- ・適切に叱ることで、少しずつ自分たちでできるようにする。
- ・自分たちの様子を知るために動画を活用する。
- ・自分もがんばる子がリーダーになると、周りも協力する。
- ・小さいことをほめる、小さいことを見逃さず指導する。

→「生き生きと活動＝自由に」ではない。リーダーやフォロワーを育てる。

#### ○グループ⑤

- ・学校全体の取組と学年の連携が重要
- ・子どもの書いたもの、発した言葉を認める、ほめる。
- ・向上心が課題である。
- ・成功体験を積み重ねる。

**【第4分科会】**  
～文化的活動～

- ・学級の応援グッズや子どもたちの寄せ書きで気持ちを盛り上げる。
  - ・班ノートや班の点検活動を活用する。
- 行事での成就感+日常生活→生徒の高まり、生き生きとした活動  
→フォロワーの育成と向上心の育成が課題

○グループ⑥

- ・先生方が統一した指導ができない（日常の指導）
  - ・行事では子どもたちが試行錯誤しながら活動することを大切にする。
  - ・行事の中間反省や学級アンケートで、自分たちで問題点を見つけ出し、解決する。
  - ・小規模校では、先生方が学年委員会をかけもちすることで活動の場を確保する。
  - ・人気投票ではなく、信用信頼のあるリーダーを育成する。
- はじめは「型」をつくって「やらせる（ルールをしく）」が、充実感を感じさせながら、だんだんとしっかりとした考えをもつ子に任せていく。

**②成果と課題**

「集団づくり」という共通の課題に取り組む先生方と実践や理念を共有できたことに価値があり、そんな先生方のつながりが広がったことに意義があると感じた。

**①小集団でのレポート・実践交流**

第4分科会では、「学芸会や文化祭における表現活動（劇・音楽・踊りなど）の実践」というテーマを設定し、全てのレポート発表を参加者全員が聞くことができるように全体交流のみを行った。

- ・全員が常にステージ上にいる状態で進めることができるシュプレヒコール劇の紹介
- ・特別支援学級と交流学級の児童の劇発表
- ・大人数の学年でもできる劇台本の紹介と、人数に応じた台本の変え方の実際
- ・ボディーパーカッション発表の紹介
- ・発声練習の方法や効果的な演出方法
- ・劇指導における児童の盛り上げ方や効果的な練習方法

**②成果と課題**

各校（発表者）の実践を、DVDを活用したり、実演をしたりとわかりやすく発表する学校が多く、今後の指導にすぐに生かせる、実りある交流となった。一方、昨年度のようなレクリエーションや遊びを紹介・実践する内容を望む声もあった。



### Ⅲ. 講演会（実技・理論研修会）

【北ブロック】「コーチング講演会」

講師：小川 聖子 氏(Beamspring)

#### ①講演会の様子

講師の経験をもとに、「人はありのままの姿がもっとも美しくパワフル」であり、自分に何かを足すことで力強くなるのではなく、本来の持っている美しさや力強さを呼び戻すことが大切であるというお話がありました。その手助けをするために、「自己信頼と自己成長」を軸として、「本当に力強い組織づくり」についての講演が行われました。

#### ②成果と課題

実践的でわかりやすい講演だったため、部会員からは、「聞き方を意識していこうと思った」「普段の自分がいかに聞き上手ではないか気づいた」「体験型の内容だったので楽しく取り組めた」という声が聞かれた。

一方で、内容が対大人へのコミュニケーションの取り方だと感じた部会員もおり、日々子どもたちとののかかわりで生かすことが難しいと感じる内容であったことが課題として挙げられる。



【南ブロック】「構成的グループエンカウンター」

講師：古原 祥子 氏（石狩市教育支援センター）

#### ①講演会の様子

構成的グループエンカウンターについて、理論の学習とグループでの演習を行った。エクササイズを選び方や流れについて学習し、実際に演習を行って理解を深めた。思いや経験則だけではなく、ツールを使ってスキルアップを図ること、ひとりではなくチームで取り組むことで、児童、生徒の理解を深め、よりよい学級・学校づくりをとともにめざす大切さを実感することができた。



#### ②成果と課題

理論を学んだ後に、実際にグループでエンカウターの演習を行ったが、「障がいのある生徒と周りの生徒との関わり方について学ぶことができた」「実践的な講演を受けることができて充実していた」という声が部会員から多く聞かれ、構成的グループエンカウンターについて実感をともなって理解することにつながったようである。

一方、「実践の映像などがあればイメージしやすい」「理論部分は資料で十分なので数多く活動を体験した方が実践に役立つ」という意見もあった。

### Ⅳ. 部会研究の成果と課題

#### 1. 成果

- 研究内容やレポートの書式などを部会便りで提示し、部会員への周知に務め、レポートや実践をもとに活発に意見を交換することができた。
- 小グループ交流では、他校の取組を聞くことができ、今後の指導に役立つような話し合いの場とすることができた。また、自校の成果と課題を明確にすることができた。
- 第1分科会と第4分科会を小中合同とすることで、人数不足の解消だけでなく、異校種の取組も交流でき、よい刺激となった。
- 前年度までの反省点だったレポートの帳合作業のやり方を検討・改善したことがスムーズな運営につながった。
- よりよい集団づくりに向けて、発達段階に応じ、教師主体から児童・生徒が主体となって活動していけるような指導方法の工夫が必要であるという共通理解が得られた。

#### 2. 課題

- 様々な活動を児童・生徒にさせるための時間の確保、教師による準備の時間、フォローの体制などに限りがあり、活動の精選をしていかなければならない。
- 児童・生徒の力量に合わせて、教師側がやらせたいことと、児童・生徒がやりたいことのバランスを考えて活動を行う必要がある。
- レポート・実践交流の時間が十分でないと感じる部会員もいたので、多くの部会員にとって充実した時間となるよう運営方法を検討し、改善していきたい。

（文責 小野寺 海人）